

# 保護犬育て一石三鳥

## 入所者に癒やし・地域交流・殺処分回避

秦野市戸川の介護付き有料老人ホーム「アプルル秦野」が保護犬を引き取り、入所者に癒やしを与えるセラピー犬に育てる活動に取り組んでいる。地域の親子連れを招き、セラピー犬と遊ぶイベントも開き、施設と地域を結ぶ懸け橋の役割も期待している。

(山元 信之)

施設で飼育されているのは、いずれもメスで、7歳のミニチュアダックスフントのルルト、生後8カ月の雑種ターチの2頭。ルルトはブリーダーの繁殖用に飼育され、病気になって保護された。ターチは野犬だったという。2頭は殺処分ゼロを目指し犬を引き取っている広島県のNPO法人などから譲り受けた。

施設内にはドッグランを整備し、ドッグトレーナーの資格を持つ職員を採用。6月に2頭を迎え入れ、ドッグランで散歩するなどして、訓練をしている。2頭とも人に慣れているため、入所者と少しずつ触れ合う機会を設けている。万一の事故に対応するため、ペット保険にも加入している。

「犬と触れ合うことで入

## 秦野の老人ホーム

居者に元気になつてほしい。一緒に散歩することで運動不足の解消になると、運営会社のアプルル(藤沢市)は以前からセラピー犬1頭を飼育。他施設との差別化を図ろうと、秦野を含む傘下の7カ所の老人ホームを巡回させていた。ただ、1カ所当たりの訪問頻度は2、3カ月に一度に限られるため、触れ合う機会を増やそうと、自社で育成することにした。

また、地域住民に開かれた施設にするため、アプルル秦野では6月から地域の子どもたちに犬と遊んでもらう月例イベントも始めた。寂しく食事を取る「孤食」防止も目的に「わんこタッチ食堂」と銘打ち、参加者は食事を入居者と一緒に食べた後、2頭を抱いた

り、触ったりできる。7月21日に開いた2回目のイベントには小学生と保護者ら13人が参加。市内の小学5年生の平岩未唄さん(11)は「ルルトはとても落ち着いていた。お年寄りと一緒に話してよかった」と話していた。同社の西川敬司取締役運営本部長は「全国の老人ホームで犬を1匹ずつ引き取れば、殺処分をなくすことができる。この取り組みを他の施設にも広げていきたい」と意気込んでいる。



犬と遊ぶ小学生や入居者ら  
＝秦野市の老人ホーム「アプルル秦野」